

導入の背景 — ①小・中学校における実情

市立小中学校では各校独自で保護者連絡ツールが導入されていますが、一部の学校では保護者の費用負担が生じています。また**お便り等の配布も紙が中心**となっています。

現状

- それぞれの学校で保護者連絡ツールを導入しており、一部の学校では保護者に費用負担が生じている
- お便りやチラシの配布は紙が中心

課題

- 保護者の**費用負担**
- 紙のお便りを**家庭へ確実に届ける**ことができない
- 印刷・配布に係る**教職員の作業負担**

目指す姿

統一システムで**保護者の費用負担をゼロ**に。
学校と家庭がデジタルで直結する、**安全・安心な教育環境の実現**を。

解決策 — ①小・中学校向けに「ミマモルメ」を導入

令和8年9月より順次、市立小・中学校へ保護者連絡アプリ「ミマモルメ」を導入します。

保護者のメリット

- **費用負担がゼロに**
市の一括導入で保護者の費用負担はゼロ
- **アプリから連絡が可能に**
スマートフォンのアプリ等から、
欠席や遅刻の連絡がスムーズに
- **紙チラシなどのデジタル受信が可能に**
これまで紙で配布していた行事チラシ
などをデジタルで受け取れるように

教職員のメリット

- **市内統一システムによる業務負担の軽減**
市内全校で連絡システムが統一されることで、異動
先でも同じシステムを継続して利用
- **ペーパレス化によるコスト・労力の削減**
印刷・仕分け・配布作業に係る教職員の負担を削
減し、同時に紙のやり取りによる紛失トラブルも未然に
防止



実際のアプリ画面を
ご覧ください

導入の背景 — ②幼稚園における実情

幼稚園では令和8年度から3年保育の開始による**園あたりの園児数が増加**し、また、預かり保育の時間拡充（最大7:30～19:00）に伴い**事務量が急増**していることや、欠席・遅刻の連絡が1回線の電話のみで行われている現状などが**保護者・教職員双方の負担**となっています。

現状

- 紙による預かり保育の利用申請
- 欠席・遅刻の連絡は1回線の電話
- 園児情報の管理が紙中心



課題

- **双方の負担及び確認漏れのリスク**
- 朝に**連絡が集中し、電話がつながりにくい**
- **書類紛失のリスク・業務負担**

目指す姿

教職員の負担を軽減し、『**子どもと向き合う時間**』を最大化。
保護者とのコミュニケーションも円滑にし、**教育・保育の質のさらなる向上**を。

解決策 — ②幼稚園向けに「キッズビュー」を導入

令和8年9月より順次、市立幼稚園へ幼稚園・保育園向け保育ICTシステム「キッズビュー」を導入します。
令和9年1月には市立保育所においても同様にシステム(アプリ)を導入予定。

保護者のメリット

➤ スマホで預かり保育の利用申請が可能

申請や変更の度に行っていた
紙の申請書の提出が不要となり、
スマホでいつでも申請・変更が可能に

➤ 朝の電話連絡が不要に

忙しい朝に電話をかける必要が
なくなり、欠席・遅刻の連絡が
アプリで完結



教職員のメリット

➤ 預かり保育の利用実績の自動集計

預かり保育の利用申請電子化及び登降園打刻の
自動化により、集計に係る業務負担を軽減

➤ 欠席・遅刻状況の教職員間共有

タブレット端末を見るだけで欠席・遅刻状況の把握
が可能

➤ 園児情報の一元管理

園児の基礎情報や緊急連絡先をシステムで共有
し、園内での情報共有がスムーズに

今後の展望 — 子育て・教育DXの実現に向けて

今回の導入を「子育て・教育DX」の第一歩として、今後は現場の声を踏まえながら**対象機能を段階的に拡充していきます。**

STEP 1
令和8年9月

市立小中学校・幼稚園で開始

- 欠席・遅刻連絡やお便り配信、登降園の通知など、施設種別に応じた一部機能から順次利用開始

STEP 2
令和9年1月

市立保育所でも開始

STEP 3
令和9年度～

機能を段階的に拡充

- 利用状況や現場の声を踏まえ、施設種別に応じた機能を拡大

拡充候補の機能
(小・中学校)「家庭環境調査票」・「保健調査票」のオンライン提出
(幼稚園) WEBアンケート、指導計画等の作成